

## 第11回ふれあいトーク（若者目線のボランティア・NPO活動から） 会議記録

- 1、日時 平成23年8月30日（火） 午後7時30分から9時
- 2、場所 コミュニティーハウスひとのま
- 3、出席者
- ・ALECE 高岡 2名
  - ・合資会社そうしろさのあらい 1名
  - ・高岡市ボランティアセンター個人登録ボランティア 1名
  - ・高岡市市民活動支援・協働推進講座実行委員 1名
  - ・独立行政法人国際協力機構 富山デスク担当 2名
  - ・メイクボランティアカラーの会 2名
  - ・人のま 1名
  - ・高岡 RAKUICHI 1名
  - ・とやまけん男性保育者の会 2名
  - ・当日参加者
- ・高岡市  
市長、市民協働課長、広報統計課長

#### 4、会議次第

- (1)市長挨拶
- (2)市の出席者紹介
- (3)参加者紹介
- (4)市民協働プラットフォームについて説明
- (5)意見交換

.....

#### 参加者紹介

参加者の自己紹介の中で、各団体の活動を紹介していただいた。

#### 意見交換

市長

- ・先ほど活動紹介の中で、ベビーサインの活動が高岡市ではなかなかできないという話があったが、仲間を見つけたり、場所を探したりすることは難しいか。

高岡市市民活動支援・協働推進講座実行委員

- ・以前住んでいたところでは、市民が借りられる広いスタジオがあった。高岡市にはそのような場が少なく、あってもスペースが狭い。

とやまけん男性保育者の会

- ・男性保育者の会で活動している。父親をメインとした研修等をしたいと思っているが、開催場所に困っている。有料の場所を借りる場合、「参加者が集まるか」「収

支がマイナスにならないか」という心配がある。活動しやすい、気軽に借りられる拠点となる場所があればやすい。

- 現在はふれあい福祉センターを活動の拠点としている。ベビーサインなどができるようなスペースもある。ボランティア団体としての登録ができれば無料になる。

合資会社そうしるさのあらい

- 男女平等推進センターは、団体として登録すれば会議室等の利用が無料になる。
- 自治公民館など場所はあると思うが、継続して利用していくとなると自治会との関係も必要である。高岡の人は一度仲良くなるといいが、最初に関係を築けないと残念な結果になることもある。じっくり話してみると同意を得られることももちろんある。地域でも自治会や婦人会の方々がフォローしてくれるので、若者が関わらなくても解決する場合がある。例えば、市長のわがまちトークの参加者もほとんどが60歳代以上の方であり、若者が関わりたくても関わることのできない雰囲気もある。

市長

- 皆さんの活動にはそれぞれ分野があるが、活動分野によっては地区の中で完結している部分もある。例えば、子育てや高齢者の見守りなどの分野は、隣近所での関わりについて行政としても取り組んでいる分野である。そのような中で、新しい手法を持ち込んだときに、地域でどのように受け入れられるのかという課題があると思う。地域との関わりで何かネックがあれば教えていただきたい。もしくは、そのようなことにとらわれなくて、全市的にやっているという例があれば教えていただきたい。

人のま

- 若い人の話でよく聞くのは、「新しいことをやろうと思ってもしがらみがあってできず、どうせ言っても無駄だから今まで言えなかった」というような意見である。私は高岡市に転入してきて地域的なしがらみはないので、いろんな方を巻き込んで活動していきたいと思っている。若い人も声を上げていけばできるというところを形として見せたい。もちろん自治会での活動もいいところはあるが、それが全てと考えなくてもよいと思う。

独立行政法人国際協力機構

- 今、国内では、青年海外協力隊の国内版のような地域おこし協力隊という活動があり、都会から若者に来てもらって地域おこしに協力してもらっている。高岡市外から高岡市に来てくれる方にはインパクトがあり、違った目線があるので、地域も活性化するのではと思う。

市長

- 地域おこしにはいわゆる「よそもの」、違う目線を持った人の視点が必要である。地域と外国人との関係はどうか。

ALECE 高岡

- 地域には保守的な気質を感じる。企業がやっているボランティア活動でなく、後

る盾のない新しい活動は怪しまれてしまう。外国人への教育支援の活動なので、教員の方に講師を依頼することがあったが、初めは引き受けてくれたものの、正式に依頼すると断られてしまった。

- 外国人を支援する他団体と一緒に外国人のための進学説明会を開催したときも、市の教育委員会に協力や見学をお願いしたが断られた。高岡の地域性なのかはわからないが、保守的な壁を感じている。

市長

- 地域性にかかわらず、その団体のことがよくわからないので、どこまで関わっていいのかわからないということもあると思う。相手のことが少しずつわかってくると、信頼関係が築けるといことはある。
- 行政と皆さんがお互いに情報を出し合うということが大事だと思っている。行政が皆さんと一緒にやることで、皆さんが活動の中でお付き合いしようとする人に対して信用性を見せていくということも必要である。反面、行政の関わりを嫌がる方もいらっしゃると思うので、皆さんとどのようにお付き合いすればよいか、私たちも勉強中である。何かあれば市民協働課にも相談していただきたい。

広報統計課長

- 広報紙「市民と市政」でも、「協働かわらばん」のコーナーで市民活動団体を紹介している。こちらのコミュニティーハウスひとのまも紹介させていただいた。皆さんの活動を地域に紹介していくことも行政の仕事だと思っている。

メイクボランティアカラーの会

- 私たちの活動は、新聞に掲載してもらったことで広まった。メイクの活動ということで、「化粧品を買わされるのでは」と思われることもあり、チラシを配って直接説明しながら活動していたところを取り上げてもらった。
- 富山市社会福祉協議会と富山県のボランティアセンターに登録している。高岡市でもチラシを配ったが、利用希望が少なく、現在は富山市を中心に活動している。
- 先日活動紹介フェスティバルがあったが、その際に活動内容をいろんな方に知ってもらうことができたので、高岡でも活動していかなくてはと感じた。

市長

- 介護施設を訪問してお祝いをするときに、お年寄りが化粧をしていきいきとされている様子を見ることがある。

メイクボランティアカラーの会

- そういうときに合わせてメイクをすることもある。家族に見てほしいという人、だんなさんが来られるからうれしくていきいきとされる人もいる。毎回「させていただく」という気持ちで活動している。

参加者

- 同じメイクの活動をしている方で、白血病を患っている方に老け顔のメイクをしたという話を聞いた。親に自分の年をとってからの顔を見てほしいという依頼だったらしい。若々しく見せるためだけではなく、このような例もある。

- 事故や病気でかつらが必要な患者向けのかつらを販売している方の例だが、中国でかつらを買ってインターネットで販売したが、安すぎて疑いを持たれ、初めは売れなかったそうである。地元のマスコミが活動を取り上げたことで利用者が増えたそうだ。

合資会社そうしるさのあらい

- 浜松市の一般社団法人ピアの佐藤真琴さんの活動である。ソーシャルビジネスとしてやっておられる。

とやまけん男性保育者の会

- 団体として認知してもらうまで時間がかかるし、難しいと感じることもある。私たちの活動も、男性ばかりで「子育てします」と言って初めはとても怖がられた。ビラなどを配ってPRしてきたが、なかなか認知してもらえないと活動意欲が下がる時はある。何かに取り上げてもらい、知ってもらうことで活動意欲は高まると思う。

市長

- 広報紙「市民と市政」でも活動を取り上げていきたい。今度できるポータルサイトでも、市の看板があるところで皆さんの活動を紹介することができればと考えている。

合資会社そうしるさのあらい

- 高岡次世代経営塾やニューリーダーアカデミー、先日の芸文のプレゼンなど、高岡には若い人を巻き込み育成するしくみがあるのに、その後がどうなっているかわからない。学んだ人が何か活動を発展させていってくれればと思う。今、飲食店の方たちが「高岡流お好み焼きととまる」をPRしているように、グループ・個人が自分たちの職業やスキル、強みを活かして活動する仕組みがあればいいのではないかな。産業企画課と市民協働課でうまく連携していただき、社会企業・コミュニティ企業の土壌をつくっていただきたい。いい意味で活動を継続できるだけのお金を回していけるようになればよい。
- アクティブシニアとは異なり、若者にとって団体を経営し、活動を維持継続させることは大変である。例えば、ニューリーダーアカデミーの発表優秀者に50万円、100万円のお金を出して活動支援をするなど、また、そういう活動をマスコミで取り上げるなど、つなげていくしくみが必要である。

市長

- 活動される上で資金源は悩みだろうと思う。ビジネスとボランティア活動との関係についてはどうか。

高岡 RAKUICHI

- 資金面で活動を支援するしくみがあれば心強い。モチベーションも上がっていくと思う。

市長

- ニューリーダーアカデミーなどは人材育成の目的でやってきており、ノウハウを活

かして行ってほしい。先日、富山大学芸術文化学部の学生が行ったまちおこしのプレゼンテーションのひとつで、実際にやってみたものがある。瑞龍寺のライトアップのときに、八丁道を光の川に見立て、LEDを使ってライトアップした。おもしろいものはブラッシュアップして事業に取り入れていきたい。

人のま

- そういう人たちにこのひとのまに来てほしい。いろんな方が集まっているので、「こういうことなら協力できる」など、話ができると思う。

市長

- ひとのまにはこのような場を作っていただいてありがたい。行政としても皆さんが情報を共有できるラウンドテーブルをつくりたかった。例えばポータルサイトに登録してもらうことで、先ほどから話してきた活動の上でのネックが改善されればいい。人の輪、ネットワークがどんどん広がって行ってほしい。

参加者

- 行政書士の方で、困っている方のためにほぼボランティアのつもりで仕事をして最低限の料金をいただいたところ、感謝されるどころか「どうせ商売だろう」と言われたという話を聞いた。「商売でやっている」と言われると、ボランティアとしての意欲が下がる。

市長

- NPO法人として法人格を持っているところ、持っていないところがあると思うが、活動への対価を取ることにに対する周囲の理解度はどうか。「NPO = ボランティア = タダ」という感覚があり、トラブルになることはないか。例えば、ひとのまでは参加料などをいただいていると思うがどうか。

人のま

- ごくたまに言われることはあるが、「みんなの居場所だから」と居座るような人はいない。

合資会社そうしろさのあらい

- 今日午前中に他団体とひとのまの活動について話していたら、「タダではだめだ」という意見が多数を占めていた。「タダでは維持継続できない」という意識は皆さんにあるのではないか。NPO法人として活動しても、ボランティアベースであるというのは間違いないが、「お金をいただくなら最初から取るべき」という意見も多かった。

人のま

- はじめから「お金をいただく」と言う間口を狭めることにもなるので、兼ね合いが難しい。

合資会社そうしろさのあらい

- 最近プロボノと呼ばれる、各分野の専門家が職業上の知識を活かして社会的貢献やボランティア活動をするという形がある。この活動も正しく浸透すればよいが、頼む方、頼まれる方も一定のモラルを持たなくてはならない。「どうせタダだから

やってもらおう」となるとお互いの関係もぎくしゃくして大変になると思う。

市長

- ボランティア活動の中でも、奉仕の部分と、ある一定の条件の中で実費をいただく部分があるということが理解されればいい。

参加者

- 私はまだ一人で活動をやり始めたようなものだが、活動を知ってもらうためにはこういったコミュニティから始めればいいのかと思ってやっている。今日のお話を聞き、皆さん思っていることは同じだと感じた。市民協働課のポータルサイト等で皆さんと幅広く活動していきたいと思う。

人のま

- こちらの人は「行政」「市民」と分けがちであるが、分けるのではなく、お互い良いところはいっしょにやっていこうという発想でやっていきたい。今日もいろいろな団体の活動を知ることができたので、皆さんとつながっていければと思う。行政と協力してやればよいと思うことは一緒にやっていきたいし、みんなで仲良くやっていきたい。

市長

- 協働にも、行政がお金を出すもの、人を出すもの、一緒になってやるもの、いろいろな形がある。皆さんそれぞれの分野、思いで活動をされている。その活動の土俵をつくりたいとずっと考えていた。皆さんの活動の情報が集まり、それぞれが組み合わさってほしい。
- いろいろな支援をこれからもしていきたい。行政が何かお手伝いをするすることで、活動の認知度を上げたり、皆さんが活動しやすいバックグラウンドをつくったりすることができればと考えている。協働ということに関しては、行政もそれほど長い経験を持っているわけではない。一緒になって「こうなったらいい」という世界をつくっていきたい。
- 皆さんの活動分野には、既にそれぞれのプロがいる場合があり、壁は高いかもしれない。既にその分野で一定の成果があることから、ある意味保守的に感じることもあるだろう。市においても、「教育」「福祉」などセクションは分かれているが、分野を横断的に、協働の切り口でやっていくというセクションを設けることで、情報共有ができればいいと思っている。
- 例えば、災害時の救援物資の対応では、受入側では「もう必要ない」と言うが、個々の施設などでは必要なものが不足しているということがある。行政はマクロでの対応は強いが、個々の対応には弱い面がある。このような得意でない部分に皆さんの力を借りたい。